NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター　イデア

2017
4月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

2 | 二言三言　居場所と交流の場づくりが地域を変える
4 | 団体紹介　いわい美術振興協会　（一関）
5 | 地域紹介　室根　上津谷川自治会　（室根）
6 | 企業紹介　農事組合法人　とぎの森ファーム　（千厩）
7 | センターの〇〇　100 人？に聞きました！方言編②

フタコト×ミコト

第35回　二言三言　92/120,746

居場所と交流の場づくりが地域を変える

対談者　一関地区まちづくり推進協議会　コミュニティ検討部会　会長　若山義典さん
聞き手　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

皆で子育てができる地域へ

【小野寺】今回は、一関地区まちづくり推進協議会のコミュニティ検討部会長の若山義典さんに、地域協働体として初めての事業で、地域づくり計画の数ある事業の中から「こどもしょくどう」に絞って事業を行った狙いについて伺っていきます。

一関地区まちづくり推進協議会
コミュニティ検討部会
会長　若山　義典　さん

【若　山】私は、「こどもしょくどう」を行うにあたり、子ども達へ「君たちは思った通りにできるんだから、前を向いて夢に向かって生きてほしい」というメッセージを送りたかったんですよ。私は 20 代の頃に生活苦でどん底を経験したことがあったんですが、そこから「マイナスの考え方でいるからマイナスの人生になる。考え方を変えれば人生が変わるし、過去は関係ないんだ」ということを学んだんですよね。今回の「こどもしょくどう」は、色々とマスコミに取り上げられて「成功だ、成功だ」って言われるけど、私の中では一切成功なんていう気持ちはないんですよ。

【小野寺】まだ始まったばかりですからね。あとはこれをどう広げていくかということでしょうし。

【若　山】「こどもしょくどう」を行ってみて、子ども達の親が場所を必要としていたことがわかりましたね。今回は色々な人が関わってくれて、その人達のつながりがパワーを大きくすることを実感しました。そのため、地域のボランティアや高校生さんへ協力をお願いし、人をよりよくしていけば、「こどもしょくどう」の本当の目的である「地域をつくる」に行きつくのかな。私は 10 年後、一関市がどう変わっているかを想像します。人口は減ってるけど世帯数は増えているし、人のつながりがないからどんどん孤立していってる。横のつながりができて初めて地域だと思うんですよ。私たちの活動は、人のため地域のためと言うけど、最終的にはいずれ自分に返ってくるんだよね。

【小野寺】地域づくりって、結局は、住んでいる自分に返ってきますからね。

【若　山】そうそう。人がよい地域には人が集まってくるので、人口減少にもストップがかけられるし。地域がしっかりしていれば、家族も子ども達もしっかりできて「じゃあ子どもを育てようか」と出生率が上がってきますし。地域にある色々な問題を一つひとつ解決していき、住民が一緒になって地域に関わるようになれば、一関は変わると思うんですよね。

【小野寺】一関地区は、JR の一ノ関駅があり商店街があり、住民も多く恵まれた環境です。商店街があるので、人の往来はあるけど、生活のためのコミュニティの希薄化が課題に挙げられます。「こどもしょくどう」という地域で子育てしようという舞台をつくることで、日頃関わりのない方が「こどもしょくどう」を通して、人のつながりや分野のつながりができていくだろうし、この考えが、部会をいくつも作らず、「こどもしょくどう」一つに絞ったのは、地域づくりは縦割りではできないという背景があったのだと思います。

また、一般的な概念の子供食堂は、対象者を絞ったりしていますが、今回は、絞らず誰でも参加できるように広げたのもポイントだと感じています。

こどもしょくどうはたくさんの親子で賑わいました

【若　山】なのでこれからもっと色々な人を巻き込みながら続けていきたいと思っています。これを継続していくにあたり、大事なのは場所ではなくやはり人なんですよ。協力してくれるボランティアも必要になってきますし、その人と人を線で結び、色々な線を張り巡らせていきたい。そして、こどもしょくどうのようなものを一関地区以外の地域にも広げ、まちづくりにしていきたいですね。

一関の 10 年後を見据えて

【若　山】もう一つ、私が重視している視点は学校関係なんですよ。私の中で学校と地域は同じ目線で同じ問題を共有できる関係にならないとダメだと思っていて。私は学校評議員をやっている中で、学校の現状とか様子とか、大変な思いをしている話を聞いていますが、学校ではそういうことに対応する余裕がなくなってきているようです。そうなると、どこが関われればいいのかというと、地域なんですよね。

【小野寺】学校だけではできない分を地域で補完してあげるんですね。

【若　山】大変だからやらないんじゃなく、大変だからこそやらなきゃなって。地域で子どもを育てれば大人になってから地域に戻ってくるし、地域も変えていけると思うんですよ。

【小野寺】そういう風に関わってきた子ども達というのは、おのずとそういう人材になっていきますからね。

【若　山】そういう意味では、今は地域は地域であるけど地域じゃないというか・・・。

【小野寺】居住地であってコミュニティじゃないということですよね。

【若　山】これから求められるのは、コミュニティですね。

【小野寺】そうですね。だから、ご近所の底力とか、「つながっている力」が試されるようになっていくと思います。

【若　山】そうそう、それがきちんと機能していけば「ここの地域すごくいいよね」って思いますよね。

【小野寺】人が出てくれば「あれやろう」「これやろう」と色々なことができるわけですからね。その色々な取り組みが課題を少なくして、住みやすいし住みたい地域になりますよね。「こどもしょくどう」は、時代の流れにちょうど合ったものができたと思います。よく言うじゃないですか、「昔やってダメだった」とか「前に失敗したから」とか。でも、昔やってダメだったかもしれないけど、今の時代なら合うかもしれないし、昔やってダメだったというのは通用しないんですよ。

【若　山】過去は過去でしょう。昔を振り返ってどうするの？って。大切なのは「今どうしたいのか」ですよ。今は６人に１人が貧困で、食事をとってない子もいるみたいだという話から「こどもしょくどう」になったんですが、居場所ができれば、色々な人が集まることで様々な化学反応が起きて、人とのつながりができて。「地域づくりは居場所づくり」かなと思います。あちこちに居場所があれば寂しい思いもしないし、心も救われるし。だから「こどもしょくどう」は、居場所と交流の場であり、食事を通してのコミュニケーションの場ですよ。

それを継続するには仕組みづくり・人づくりが重要ですよね。しっかり仕組みを作って、事業が定着して、若者も一緒にやっていけば、10 年後、一関は変わっているかもしれない。そして、やるならば、高齢者にとっても子どもにとっても皆が笑顔になるまちづくりだよね。皆が住みやすい地域をつくっていきたいし、やるにあたっては自分が楽しまなきゃね。

基本情報

【一関地区まちづくり推進協議会】
事務所：一関市民センター内
住　所:〒021-0901
一関市大町 4-29 なのはなプラザ3F
電　話:0191-21-2148　FAX:0191-21-2146

団体紹介

理事長　及川功至さん

～基本情報～

◆理事長：及川功至（かつゆき）さん
◆連絡先：〒021-0872
一関市真柴字宮沢 60-35
◆電　話：0191-23-1366
（連絡先･電話とも事務局長石川千恵子さん宛）

『美術をさかんにするために』の一念で

多様な人材が集まる美術集団

3 月 2 日から 4 日間、一関文化センターで開催された「第 17 回いわい美術展」は、主催するいわい美術振興協会（以下同会）の創立 25 周年の記念展でした。

かつては会派や個人がそれぞれ独自に美術活動をするのが主流だったそうですが、そうした状況を変えていく必要があると感じた人達が、個人や団体の枠を超え、横断的に連携することで自主活動の拡大促進と充実を図り、美術の盛んな地域づくりにふさわしい振興事業、人材育成に寄与する目的を掲げ、平成 4 年に発起人会を発足（設立総会は翌年）。以降 25 年にわたる活動の中で、水彩画、油彩画、版画など制作手法の違いはもちろん、個人もいれば美術会派に所属している人、中には絵は描かないが見るのが好きという方まで同会には実に多様な人材が集まっているのです。

今回は、25 年前の発起人の 1 人であり、10 年間の事務局長経験も持つ及川理事長にお話しを伺いました。

２つの目的を支える多彩な事業

同会では「自分自身の作品を高めていく」「一関地方の美術振興（美術の盛んな地域づくり）」という２つの主目的に向け、各種の取り組みを行っています。

例えば技術向上を図り、実技研修として年数回開催するスケッチ会。その成果は「スケッチ展」として公開されます。また、10 号（絵画のサイズで長辺が 530 mmのもの）以下の小規模な作品に限定した「いわい美術小品展」、規模の大きな作品も扱う「いわい美術展」をそれぞれ年 1 回開催。会員以外の市民も出品可能というこうした美術展は、会員・市民双方の描き手の創作意欲向上に繋がっているだけでなく、市民が気軽に美術鑑賞ができる環境づくりにも寄与しており、まさに２つの目的を両立する事業といえます。

また、良い作品や美術館という場との出会いを創出している人気事業「美術館見学」も、及川さんが「東北の美術館はほぼ行った」と語る通り、設立当初から現在まで、通算で 40 回を数えようとしています。

他にも「一関子ども文化祭」では子どもたちの作品の審査・講評に関わるなど、幼少期からの美術振興にも一役買っています。

会報「Conté（コンテ）」に込める想い

「一関地方は美術に関係する優れた人材を輩出しており、彼らの存在に触れることが美術による地域づくりにも繋がる。作品はもちろん、様々な人の考え方や意見が盛り込まれた私たちの会報をぜひ読んでみてほしい」と語る及川さん。画材用チョークを意味する「Conté（コンテ）」と名付けられた会報は年 1～2 回発行され、一関市博物館などに配架されているそうです。

内容も「美術館・画廊情報」「誌上コレクション」「美術館のある風景」など、毎回工夫を凝らして製作。中でも著名人を含む多士済々な人材からの寄稿は、単に作品や芸術家、美術界の背景といった解説的なものだけでなく、岩手や一関の美術を取り巻く環境や、会員・行政・市民への啓発、提言など美術振興に関する示唆に富んでおり、そこに「美術振興」を団体名に掲げる同会のメッセージが込められていると感じます。

『美術をさかんにするために』と題された 25 年前の入会案内に次の一節が記されています。『一言でいいますと美術のさかんな地域にしたいとの一念でございます。（中略）美を愛する人は誰でも入会できることを申しそえます。』そして 25 年後の今日に至るまで、この精神は受け継がれています…

創立 25 周年記念となった
第 17 回いわい美術展

地域紹介

自治会長　菊地康夫さん

～基本情報～

◆自治会長：菊地康夫さん（３期５年目）
◆上津谷川自治会（室根 16 区）には 64 世帯約 200 人が暮らし、集落内には農林水産省の「ため池 100 選」にも認定された「百間堤（有切ため池）」やツツジの群生地として有名な大森山があります。

地域での思い出や愛着が自然にできあがる自治会運営

「交流」が目的の整備活動

「鎌とにぎり飯を持ってとにかく登ろう」そんな言葉をスタートに約 25 年間、地域の山を整備しながら交流を深めている自治会があります。昭和 57 年の自治会発足当初から役員として集落運営に関わり続け、この整備作業の言い出しっぺともなった上津谷川自治会自治会長の菊地康夫さんにお話を伺いました。

津谷川地区の人たちにとって、遠足などで子どもの頃から親しみがあるのが標高 760mの大森山。親しみはあるものの、大人になってからは登る機会がなかったといいます。そんなある日、田んぼ作業中にふと大森山のツツジの赤い色に目が留まった菊地さん。当時、上津谷川集落内にあった「ほっとかみじゃご」という若者のコミュニティカフェ活動の中でその話題を出してみたところ、「久しぶりに登ってみたい」との声に。真っ赤に咲き誇るツツジの群生を見ながら山頂で交流会を行うべく、整備作業を行いながらの登山が決行されました。平成 3 年の初回は集落内の 3 歳～70 歳代まで、70 人近くが参加。それから現在まで、年に一度の整備兼ツツジのお花見登山が続いています。

平成13年には山頂から見える360度パノラマの解説用に「方位盤」を設置しようということに。当初は銅板の方位盤を検討していましたが、菊地さんの「石でやろう。みんなで担いでいこう」という提案に集落の男性陣が一致団結。完成した石の方位盤を担いだ男衆が山頂を目指す様子はテレビでも紹介されたのでした。

若者も活躍できる自治会運営

上津谷川自治会は総務部、産業部、環境部、体育部、婦人部、青年部の 6 部会で構成されています。各種事業の企画は部会が行いますが、実際の作業・運営にあたっては役員をはじめ、周囲がサポート。「企画を投げると、みんな勝手にやってくれるんだ」そう笑う菊地さん。大森山の整備にしても、地域内の各種行事にしても、細かい指示なしに自主的に一人ひとりが段取りや用意をしてくれるのだとか。

青年部では年に 1 度の資源回収を行っていますが、一人暮らしの高齢者などに配慮し、各家庭を訪問しての回収です。活動後は資源回収で得たお金を元に飲みニケーション！「うちは若者が多いって他から羨ましがられるんだ」と菊地さんは苦笑いを浮かべますが、実際、集落内の 49 歳以下の人口は約 4 割。この若さゆえ、津谷川地区内のスポーツ大会や運動会では強さを見せつける上津谷川自治会。若者の多さは単なる偶然ではなく、青年部の活動や、整備登山のように、幼いころから集落行事に関わることで、自然と若者が地域に残る雰囲気ができあがっているのかもしれません。

ヒントは‘立場の尊重’!?

各部会の事業をお聞きしていると、婦人部の活動に「未来を語る会」という気になる事業が。平成 7 年にスタートした事業で、女性たちが温泉につかりながら地域の未来を語るというもの。当時、会議のたびにお茶くみに忙しく、会議の席につくことがほとんどなかった女性たちを見て「婦人部はお茶くみ組織ではない。会議に入りなさい」と呼びかけた菊地さん。それがきっかけとなり、女性たちだけで語り合いができる場として続けてきているそうです。

また、年末には「情報交換会」と題し、農家組合と合同での役員忘年会を開催。夏祭りや敬老会、どんと祭などの行事や、道路や河川清掃など、数多くの事業をこなす役員たちの労をしっかりとねぎらいます。

地域の中にしっかりと若者や女性の居場所を作り、役員たちへの感謝も忘れない自治会運営。上津谷川自治会には持続可能な地域づくりのヒントが数多く隠されている気がします。

記念すべき第 1 回整備登山集合写真

農事組合法人　とぎの森ファーム

企業紹介

組合長　岩渕修一さん

～基本情報～

◆組合長：岩渕修一さん
◆連絡先：〒029-0802
一関市千厩町小梨字尖ノ森 158-2
◆電　話：0191-53-3521
◆農産物加工施設：食工房かのん
◆電　話：0191-53-3077

基幹産業である農業を魅力ある形で継承し続けたい！

集落営農で継続できる農業の仕組みを

一関市千厩町小梨地区の尖ノ森（とぎのもり）集落と水田を所有している近隣集落併せて 43 世帯が参画している農事組合法人とぎの森ファームは、「地域の農地を継続的に耕作するため、地域の担い手としての経営体になる」を経営目標に農事組合法人を立ち上げてから、今年で 13 年目になります。

「尖ノ森集落は、典型的な中山間地域。水源流域面積が小さいため、昔から農業用水不足で悩まされてきた集落です。また、昭和 44 年に県単小規模土地改良事業に着手し基盤整備を行ったほか、翌年には尖ノ森水稲生産組合を組織。集落内で共同作業することで、これまでの課題とされていた代掻きから田植えまでの、最も水を必要とする期間の水不足が解消されたほか、田植機などの機械化も進み、農繁期の農作業の軽減にもつながったのです」と語るのは、同ファーム副組合長兼事務局の千葉賢さんです。

平成 14 年には集落内の約半分の水田で、基盤整備事業を実施。「この基盤整備を契機として、平成 16 年には『これから先個々の農業経営では限界が見えるのではないか？』と思い、農業従事者の高齢化や担い手不足などの諸課題を解決しようと、集落内で幾度となく協議の場が設けられ、農事組合法人とぎの森ファームが設立された」と振り返る千葉さん。

現在は、営農部門では水稲、大豆、小菊栽培などを組み合わせた複合経営を実施しています。

6 次産業で経営の多角化を

同法人では、平成 24 年から営農部門のほか、加工部門（常時雇用 4 人）を設け地域における雇用の創出と農家所得向上を目的に加工施設「食工房かのん」を立ち上げました。同施設内では、地域内の農家が栽培する季節に合わせた様々な農作物を利用し、普通のお弁当のほか、カロリー控えめな「ヘルシー弁当」や高血圧や塩分制限をしたい方のための「健康弁当」など、家庭の食事をイメージした地産地消型のお弁当を作っています。ここで作られたお弁当は登録をしている高齢者宅などにお配りしており、現在、町内外約 50 名の方がご利用しています。さらに配食サービスと併せて、在宅高齢者の見守りも担っており「今後、ますます高齢化が進むと思われるので今後も配食サービス事業は継続したい」と語り、「実は今、特産品開発に着目しているところなんですよ。まだまだこれから検討していくことですからぼんやりとした形ですが、とぎの森ファームで収穫した農産物を使用して“ここでしか手に入らないもの”ができたらいいな」と続けます。

地域の若者の雇用と定住のねらい

尖ノ森集落の基幹産業である農業を将来的にも維持継続していくためにも、「若者が参画しやすく、魅力を感じられる法人の運営をしていきたい。ゆくゆくは、それがきっかけとなり、定住人口の減少を食い止めることができたら」と現在の課題“若者の担い手不足”について語る千葉さん。「若者が感じる就労の魅力といえば、通年雇用の安定した法人経営」と続け、「集落には専業農家で若い後継者もいます。そういった方々とも話し合い、お互いを刺激し合いながら将来に夢のある農業の実現に向けて努めたい」と語っていただきました。

心のこもったお弁当を宅配しています。

100人？に聞きました！方言編②

センターの〇〇！

今どきの10代は、普段どんな方言を使っているのだろうか？

前回、冬にまつわる方言の独自調査を行いましたが、スタッフの間で「10代って方言使うのかな？」と話題になりました。**そこで！！**今回は方言編②として、10代を対象とした聞きこみ調査をすることに！

10代の若者が放課後集まるであろう場所を検討し、一関地域【なのはなプラザ】、大東地域【摺沢駅・大東コミュニティセンター】、千厩地域【千厩サテライト】、藤沢地域【縄文ホール】の4か所で聞き込みを実施しました！

今回は、一関40人、大東34人、千厩13人、藤沢14人の合計101人の方からご協力を頂きました。受験などでお忙しい2月中に快く回答してくださった10代のみなさん！本当にありがとうございました。

さて、気になる**“10代の普段使いの方言”**ですが、なかなかおもしろい結果となりましたので紹介したいと思います♪

ダントツの回答は ▶ 人が回答

いずい（えずい）

なんと！**14人**の方が普段使う方言として、**いずい(えずい)**と答えました！

いずい(えずい)とは、標準語で言うところの**違和感がある状態**を示す言葉。「制服を着ていつもより**いずい**」「新しい靴を履いて**いずい**」のほか、「(体などが)チクチクする、イガイガする」などを表現するときにも使用されていました。ちなみに一関では**いずい**、大東、千厩、藤沢の各地域では**えずい**という回答が多く、気になって調べてみたところ、菅原幹郎(2011)『千厩地方の方言となまり～方言は地域住民の温かい道具～』には、**【千厩地方のなまりでは「い」という発音はなく「い」を「え」と発音する】**と記載されていました。まさに言葉の地域性も確認することができた今回の調査です。

続いて回答が多かった方言 ▶
以下の3つの方言が同数回答

あめる
あめるは、料理や食材が傷んだ様子を表す言葉で「弁当あめでっかも～」というふうに使います。

だべ
だべは、「自分もそう思ってた」「私の言った通りでしょう？」というニュアンスが含まれた相槌表現です。

なげる
なげるは、ボールを投げるという意味ではなく「ゴミなどを捨てる」という意味。「ゴミなげで～」と使います。

こちらも使われ頻度は高め ▶
以下の2つの方言が同数回答

じゃご
じゃごは、つぶすとくさ～い虫、カメムシのこと。ちりめんじゃこ(シラス)の短縮語ではありません。

んだ
んだは、**だべ**と同じく相槌や返事を表現する言葉。強調したい場合は、「んだ！んだ！」と2回言おう！

※市内高校生の皆さん、写真撮影にご協力いただきありがとうございました。

このほか、少数派でしたが「**まつぽい**(眩しい)」「**はしる**(滑る)」「**らっつぁない**(散らかっている)」「**もっけ**(気の毒)」「**ほいじょ**(包丁)」などなどの回答がありました。ちなみに、当センターの大船渡市出身スタッフは、少数派の回答が「全く分からない」とビックリ！！確かに普段大人でも使わないような方言の回答もありましたし、「方言を使わない・わからない」と答えた10代も13人いました。突撃調査だったので、もしかして驚いて答えられなかったという方もその中にはいたかもしれません。

最後に、藤沢町芸術文化協会では、毎年方言川柳大会を開催しており、児童生徒から大人まで方言を使った川柳の力作が集められているようです。こういった地域の言葉や文化を伝える活動としての取り組みもおもしろいものですね。

おしらせ

大東　室根高原「まきばの湯」4月1日オープン

室根高原『まきばの湯』では4月からシーズン営業を開始します。4月1日(土)～3日(月)は特別企画として“きなこ草もち”や“巾着ポーチ”を限定プレゼント！分校手打そば・桑うどんは150円引きでご注文できます。室根高原を一望できるお風呂で、癒しと安らぎの時間を過ごしましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成29年4月1日(土)11時オープン
【場所】大東ふるさと分校まきばの湯
【入浴料】大人320円、子供160円
【問合】0191-72-3125(現地)

千厩　せんまや夜市

今年もせんまや夜市が始まります。18時の花火を合図に、本町と新町の商店街が歩行者天国になります。楽しいお買い物とふれあいの場、多彩なイベントを存分にお楽しみ下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成29年4月8日(土)18時～21時
（以降、10月まで毎月第2土曜日開催）
【場所】千厩町本町・新町商店街
【問合】千厩夜市実行委員会
（一関商工会議所　千厩支所内）
【電話】0191-53-2735

室根　室根山山開き

県内で一番早い室根山山開きには、毎年登山愛好家や地元の自然愛護少年団など多くの方が参加しています。蟻塚公園で開会セレモニーを行った後一斉に山に登り、室根神社で安全祈願を行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期日】平成29年4月9日(日)
※日付は予定のため、変更になることがあります。
【場所】室根山
【料金】参加無料
【問合】0191-64-3806
（室根支所産業経済課）

室根　オヤマ感謝祭2017

「からあげ家」でお馴染みの(株)オヤマの感謝祭が開催されます。恒例の冷凍食品掘出市はもちろん、「室根からあげ」「ちゃんこ鍋」「やきとり」などを味わえる屋台村、屋台村のスタンプラリーで豪華賞品が当たる大抽選会ほか、チャリティバザーや地域伝統芸能のステージなど、イベント盛りだくさんです！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成29年4月23日(日)9時～15時
【場所】(株)オヤマ本社工場　敷地内
【問合】0191-64-3511

一関　第47回 岩手県南・宮城県北　神楽大会

地域に古くから伝承される「南部神楽」12団体(岩手6・宮城6)が集まり舞を披露します。アトラクションとして第46回大会優勝の川内神楽も出演。神楽が一堂に会す、年に一度の機会をお見逃しなく！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成29年4月29日(土)
9時開会　9時30分開演
【場所】一関市立厳美中学校　体育館
【料金】入場料1,000円(プログラム含む)
【問合】0191-29-2205
（実行委員会(厳美市民センター内)）

一関　2017一関春まつり

春の訪れを告げる恒例の春まつりが今年も開催されます！一年の無事故・無違反を祈る「交通安全祈願祭」やお店ごとにご用意するワンコイン商品等、ご家族で楽しめる催し物を多数企画中です。市民の皆様で一関春まつりを盛り上げましょう！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成29年4月29日(土)
9時30分～16時
【場所】一関市大町通り歩行者天国内
【問合】0191-23-3012
（一関銀座会事務所／大町2-40）

全域　「イマカラ」登録者募集

いちのせきの市民活動スタッフバンク、通称「イマカラ」は、一関市内で開催されるスタッフを募集したいイベントと地域で活動したい人をマッチングする仕組みです。

メールでご登録いただくだけで、スタッフを募集しているイベント情報を随時メールにて発信。参加ご希望の方とイベント主催団体とをお繋ぎします。※登録は18歳以上の方で居住地は問いません。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【問合】0191-26-6400
（いちのせき市民活動センター）

全域　民泊(ホームステイ)受入家庭募集

全国から一関に訪れる中学・高校生の民泊受け入れ先を募集しています。各家で農村体験(田畑の仕事、草取り、食事づくりなど)を行い、一緒に過ごすことで「心の交流」を楽しんでもらい、生きる力を培ってもらうことを目指しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【費用】宿泊体験・食事にかかる費用はお支払いします。民泊受入体験料は生徒1人につき約6,300円より。
【問合】0191-82-3111
（いちのせきニューツーリズム協議会）

一関　新規キャリアサポーター募集

キャリア教育支援として、これまで培ってこられた技能・技術(工学系のみならず広義で)などの仕事の体験や経験を、ボランティアで子どもたち(小・中・高校生)や若者に伝えるキャリアサポーターを募集します。活動できる日時や時間帯に合わせて活動でき、若者との交流や様々な職業の方との情報交換の場にもご活用いただけます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【問合】0191-26-3910
（ジョブカフェ一関）

今月の表紙

千厩の酒のくら交流施設内にある「せんまや馬事資料館」です。馬の歴史・文化を伝える資料や馬具など260点余りが展示されており、その多くが先月号と今月号の方言特集で参考文献のご協力をいただいた菅原幹郎さんから寄贈されたものだそうです。

Q & A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q　事業計画を立てる時に注意することは何ですか？

A　事業計画は、途中で行き詰まることがないよう、身の丈に合った無理のない計画にし、目標や方針を明確にするようにしましょう。また、計画は誰に見てもらうかを意識し具体的(なぜ、何を、いつ、誰が、誰に、どこで、どのように、どれだけの費用でなど)に示すことで、わかりやすくなります。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0881　一関市大町4-29　なのはなプラザ4F　TEL0191-26-6400　Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　一関市千厩町千厩字町149　TEL0191-48-3735　Fax0191-48-3736

Face book